

〈資料〉

アフリカを母国とする男女を対象とした女性性器切除 (FGM) に対する認識・態度に関する文献検討

深松聖奈¹⁾ 佐々木諭¹⁾ 忍田祐美²⁾

Perception and Attitudes towards Female Genital Mutilation
among Men and Women from Africa: A Literature Review

Sena FUKAMATSU¹⁾ Satoshi SASAKI²⁾ Yumi OSHIDA²⁾

国際機関を始め多くの組織による女性性器切除 (FGM) の廃絶の取り組みにも関わらず、依然課題は多く、地域の伝統文化に即した介入の必要性が指摘されている。本研究はアフリカを母国とする男女の FGM への認識・態度と文化的背景の影響を明らかにすることを目的とする。PubMed と CINAHL で質的研究を条件に選択し、研究結果内容の類似性に基づいて分類しカテゴリー化した。7本が対象文献として選定され 13 のカテゴリーに分類された。FGM に対する認識・態度の特徴は、地域社会で受け入れられる男女のあるべき姿への認識、すなわち女性のジェンダーアイデンティティの確立、男性の社会的地位の確保などの社会文化的特徴に裏付けられていた。健康被害を受けながらも女性自身が世代を超えて主体的に FGM を継承している現状など、複雑な地域性や社会文化的な特徴を踏まえて、女性のみならず男性を含めて FGM への認識を変える介入の実施が、社会全体の変化を促し FGM 廃絶に寄与していくと示唆された。

key words : 女性器切除、女性性器切除、アフリカ、認識、態度

female genital mutilation, FGM, perspective, perception, attitudes

1. 緒言

女性性器切除 (以下 FGM) は、アフリカ、アジア、中東の特定の民族において深く根付いた伝統であり、上記地域の 30 か国では少なくとも

2 億人の少女または女性が FGM を受けているとされている (Reisel & Creighton, 2014; UNICEF, 2016)。また、アフリカでは毎年 300 万人の少女または女性が FGM を強要されるリスクがあると報告されている (WHO, 2018)。

世界保健機構 (以下 WHO) によると、「女性

1) 京都大学医学部附属病院 2) 創価大学看護学部

1) Kyoto University Hospital 2) SOKA University Faculty of Nursing

性器切除は、女性外性器の一部または全部の切除、あるいは他の方式での女性生殖器損傷など、あらゆる施術様式を包含する概念である。文化的理由によりなされるか、その他の医学的治療的意義のない理由によりなされるかは問わない」と定義されている (WHO, 2018)。FGM の類型については、以下の4つのタイプの定義が用いられている。タイプ1は、クリトリデクトミー (clitoridectomy) と呼ばれ、クリトリスの一部もしくは全体およびクリトリス包皮の切除、あるいはクリトリス包皮の切除のことを指す。このタイプの類型をスナナ (sunna) 式女子割礼と呼ぶ地域もある。タイプ2 (excision) は、クリトリスの一部もしくは全体および小陰唇の切除で、大陰唇の切除を伴う場合もある。タイプ3 (infibulation) は、小陰唇および大陰唇、あるいは小陰唇か大陰唇のみを切除・接合することによって覆いが作られ隘口を狭めるものである。クリトリスの切除を伴う場合もある。タイプ4は、タイプ1～3の分類には入らないものを指している。

FGM は、除去された組織の程度やタイプによって一連の合併症の重大なリスクと関連している (Johansen, Ziyada, Shell-Duncan, Kaplan, & Leye, 2018)。健康リスクには痛み、出血、感染、尿失禁および尿道損傷、創傷治癒の問題そして死があると述べられている。長期的な合併症には、泌尿器、産科的、性的、精神的なものとの関連が指摘され、具体的には、尿路感染症、出産時の出血多量、性欲の減退、PTSD、不安症があると論じられている。

FGM は多くの国において違法とされ、WHO や他の国際機関、各国政府により FGM が非難されている (UNFPA et al., 2010)。また、国際機関をはじめとする多くの組織や NGO により FGM の廃絶に向けた取り組みが行われている。それら

の取り組みの主要なものとして、女性の人権保護の視点に基づく人権アプローチ、FGM を法律で禁止する法律アプローチ、FGM の健康リスクより中止を訴えるアプローチなどがあげられる (Muteshi & Sass, 2005)。

一方、介入において、対象グループの地域社会の特徴についての知識や理解が不足している場合は、効果的な介入プログラムをつくることは難しいといわれている (Berg & Denison, 2012)。例えば、宮脇 (2009) のエチオピアの調査対象地域での調査によると、女性にとって FGM はジェンダーアイデンティティを構成する重要な一部であるため、現地の女性は FGM の継続を訴えていると述べている。また、調査対象地域の女性が、「家長制社会の外でみずからのポジションを確立することは現実的に不可能である」ため、FGM による健康被害や人権侵害に焦点をあてて FGM 廃絶に取り組むことの難しさを強調している。

上記より、FGM は世界的な関心事であり、国際機関や NGO による取り組みが行われ、FGM の実施割合は減少しているが、依然として FGM を廃絶することは困難であり、現在なお高い割合で実施されている地域もあることが分かる (UNFPA et al., 2010)。廃絶が困難な背景には、地域の伝統、文化に即した取り組みがなされていないことが要因としてあげられる (Berg & Denison, 2012)。よって本研究では、アフリカを母国とする男女の FGM に対する認識・態度と、彼らの文化的背景による FGM への影響を明らかにし、コミュニティにおける FGM 廃絶に向けた効果的な介入について示唆を得ることを目的とする。

II. 研究方法

本文献研究の調査対象論文は、母国がアフリカである男女を研究対象者とし、FGMに対する認識や態度に関して探究した質的研究の原著論文とする。対象文献の抽出には、PubMedとCINAHLを使用し、2008年1月1日から2018年10月15日の間に出版されたFull textの入手が可能な文献を限定した上で、キーワード検索を行うこととする。キーワードはまず「Female Genital Mutilation」OR「FGM」で検索をし、次に「perspectives」OR「perception」OR「attitudes」

と検索した結果を最後にANDで結び検索することとした。尚、様々な文化的背景を持つアフリカの男女を対象としたため、国籍を特に限定せず、移民を対象としている研究論文も含めた。対象文献の選定条件は、FGMの認識ならびに態度について質的研究による原著論文とし、総説・解説・講演集、アフリカを母国とする対象者以外の研究、量的研究は対象外とした。

分析は質的帰納的分析を用いた。対象文献の結果に記載された内容から、コード表を作成し、コード一つ一つの意味内容の類似性に基づいて分類し、カテゴリー化を行った。

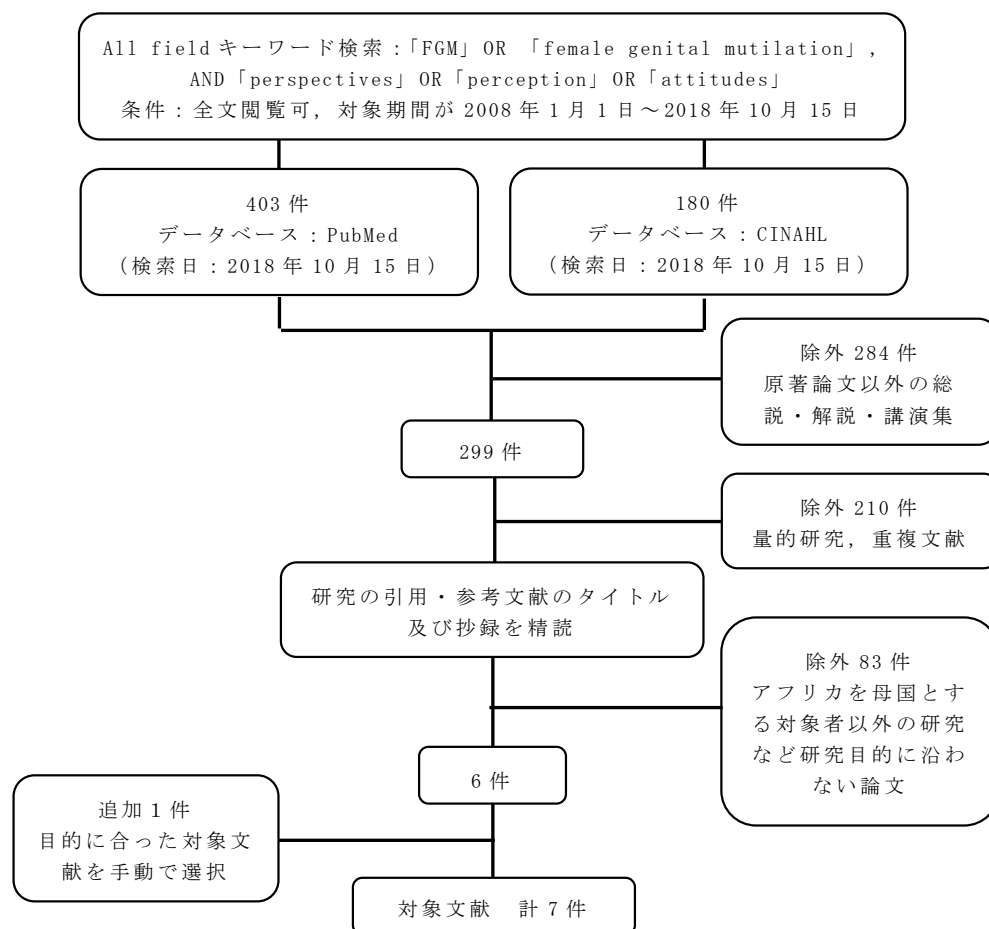


図1 文献検索と対象文献の抽出の過程

III. 結果

1. 対象文献

PubMed の検索より 403 本が抽出され、CINAHL からは 180 件が抽出された。計 583 本の中から総説、解説、講演集等の 284 件を除き原著論文を選択した結果、両データベースを合わせて 299 本の文献が抽出された（検索日：2018 年 10 月 15 日）。量的研究など選択条件に合わない文献と重複文献を除外した後に、研究の引用・参考文献のタイトル及び対象文献の抄録を精読し、目的に合ったアフリカを母国とする男女の FGM に対する認識・態度に関する質的研究の 6 件を選択した。また、引用文献から対象条件に合う文献 1 件を手動で追加し、合計で 7 件を本研究の対象文献として選択した（図 1）。

2. 対象文献の概要

本文献研究の調査対象論文 7 本の文献タイトル、著者、年、方法、および研究対象者を表 1 にまとめた。それぞれの文献に上から順に文献番号

を付け、文中ではその番号を記し対象文献を表した（表 1）。対象者の性別は、論文に記載されている対象者の概要から読み取り分類した。

文献 No.1 は、ブルキナファソ人 18～89 歳の男性 20 人、女性 24 人を対象とし、文献 No.2 では、ソマリランド人の女性 7 人を対象としていた。文献 No.3 は、アフリカ系ノルウェー人 16～22 歳の男性 12 人、女性 12 人を対象としていた。文献 No.4 では、エチオピア人 18～65 歳のソマリ地域 32 人、ハラリ地域 32 人を対象としフォーカスグループディスカッションを実施していた。文献 No.5 では、参加型エスノグラフィー評価調査が実施され、ケニア人の 18～25 歳の未婚男性 24 人を対象としていた。文献 No.6 では、アフリカ系移民 36～59 歳 8 人、コートジボワール人 28～62 歳 7 人を対象とし、文献 No.7 は、エチオピア人のソマリ地域女性 1 人を対象としていた。

3. 分析結果

研究対象文献 7 本それぞれの質的インタビュー結果として記述されているデータを内容コードに分けた結果 375 コードが抽出された。意味内容の

表 1 文献リスト

No	著者	年	方法	対象者
1	Jirovsky, E	2010	質的研究, 半構造的面接	合計 44 人 (ブルキナファソ, 女性 24 人, 男性 20 人, 18～89 歳)
2	Fried, S., Warsame, A. M., Berggren, V., Isman, E., & Johansson, A	2013	質的研究, 半構造的面接	合計 7 人のソマリランド人外来患者
3	Gele, A. A., Sagbakken, M., & Kumar, B	2015	質的研究	合計 24 人 (ソマリア, 男性 12 人, 女性 12 人, 16 歳～22 歳)
4	Abathun, A. D., Sundby, J., & Gele, A. A	2016	質的研究, フォーカスグループ ディスカッション	合計 64 人 (エチオピア, ソマリ 地域 32 人, ハラリ地域 32 人, 18 歳～65 歳)
5	Brown, E., Mwangi-Powell, F., Jerotich, M., & May, V. I	2016	質的研究, 参加型エス ノグラフィー評価調査 (PEER)	合計男性 24 人 (ケニア男性 24 人, 18 歳～25 歳)
6	Koukoui, S., Hassan, G., & Guzder, J	2017	質的研究, 半構造的面接	合計 15 人 (アフリカ系移民 8 人, 36 歳～59 歳, コートジボワール 人 7 人, 28 歳～62 歳)
7	Adinew, Y. M., & Mekete, B. T	2017	質的研究, in-depth 面接	1 人 (エチオピア, 女性)

類似性に基づいて分類しカテゴリー化したところ、FGMの維持を促す認識・態度とFGMに対する否定的な認識・態度に分類され、13のカテゴリーに区分された。以下、カテゴリーを【 】, 下位カテゴリーを「 」で表記する。FGMの維持を促す認識・態度は、1)【結婚状態の保証】、2)【男性への忠実性の保証】、3)【男性の性行為の充足】、4)【宗教上の必要性】、5)【母親によるFGMの推進】、6)【地域社会の帰属の保障】、7)【健康被害の少ないFGMの実施】に分けられ、18の下位カ

テゴリーが示された。一方、FGMに対する否定的な認識・態度は、8)【耐えられない苦痛の体験】、9)【法律・人権の侵害】、10)【宗教によって求められていない】、11)【健康への害】、12)【親としてFGMの反対】、13)【FGMと結婚生活との関連の否定】の6カテゴリーに分類され、15の下位カテゴリーに区分された。それぞれの下位カテゴリーに当てはまる原文からのコードは、その一部を代表的な例として挙げている(表2)。

表2 対象文献より抽出した内容

カテゴリー	下位カテゴリー
結婚状態の保証	結婚をするための義務
	結婚のための周囲からの強要
男性への忠実性の保証	処女性の確立
	男性(夫)への純潔性の証明
積極的な性活動の否定	男性の性行為の充足
	男性への性行為の充足
宗教上の必要性	スンニ(Sunna)を推奨している
	FGMは宗教上の義務である
母親によるFGMの推進	母親が父親の同意なしに受けさせる
	母親が娘の同意なしに受けさせる
	母親のFGMの支持
地域社会の帰属の保障	成熟した女性になるために必要
	差別・追放を免れるために必要
	社会・周囲からのプレッシャー
	男性の社会的尊重・受容
健康被害の少ないFGMの実施	富を得るために必要
	スンニ(Sunna)の擁護
耐えられない苦痛の体験	FGMの安全な実施
	施術直後の苦痛の記憶
法律・人権の侵害	施術の継続的な消えない苦痛の記憶
	少女・女性の人権の侵害
宗教によって求められていない	不法(懲役や逮捕)
	宗教によって求められていない
健康への害	FGMの施術による健康被害
	死のリスク
	月経痛・困難
	FGM施術による過誤
親としてFGMの反対	不妊・分娩・出産の困難のリスク
	(女性)親としてFGMの反対
FGMと結婚生活との関連の否定	(男性)親としてFGMの反対
	FGMの結婚への影響の否定
	FGMを受けていない女性の方が性的欲求を満たせる
	FGMが性活動を抑えることは正しくない

1) 結婚状態の保証

下位カテゴリーは「結婚をするための義務」,
「結婚のための周囲からの強要」に区分された。

(1) 結婚をするための義務

FGM を受けることは結婚をするにあたり、義務として捉えられていることが記述されていた。また、FGM を受けていない女性は、結婚する機会が少なくなることや侮辱を受けること、さらには、結婚後に FGM を受けていないと結婚を破棄されることもあると記述されていた。

Such a girl may meet insults if she is known not to be circumcised and that will have an impact on her future marriage (No. 2).

After the marriage ceremony was carried out, the father finally learned that she was uncircumcised; he soon returned her to her family (No. 4).

(2) 結婚のための周囲からの強要

家族や親戚等、周囲の人を含め、女性が結婚できるよう、地域社会として FGM を受けるよう強要されていることが記述されていた。

Despite all this, no Somali mother wants her daughter left unmarried due to this existing culture, "Marriageability" that is why we support the continuation of FGM (No. 4).

Previously we were told by our mothers and grandmothers that we will not get married unless we go through this harmful tradition (No. 5).

2) 男性への忠実性の保証

FGM は、女性にとっては処女の証明と認識され、男性は FGM を受けた女性は純潔、貞淑を示すものと理解していた。下位カテゴリーは、「処女性の確立」, 「男性（夫）への純潔性の証明」,

「積極的な性活動の否定」に区分された。

(1) 処女性の確立

女性は FGM を受けることによって、処女であると証明できることが記述されていた。また、処女性を保つことは家族や親戚にとって大変重要であり、必要なことと認識されている。

They will say things like "she is open" or that she is not a virgin (No. 2).

Back home if you don't have your virginity when you are married, that's a shame to you, that's a shame to your family, a shame to your neighbor, a shame to everybody (No. 6).

(2) 男性（夫）への純潔性の証明

女性は、FGM を受けることにより男性（夫）に対し、処女性を示すことで、純潔であることを保証することができると記述されていた。そのため、夫である男性は、FGM を受けていない女性に対して、純潔性を持たず忠実な態度を取らない女性であると認識している。

If she is not circumcised, she will be sexually active, and as a result, she will not be faithful to her husband (No. 4).

I am not sure that these girls can stay faithful to their husbands (No. 1).

(3) 積極的な性活動の否定

FGM は、結婚相手である男性への忠実を示すために、結婚を迎えるまでの性活動を抑制する目的のもと実施していることが記述されていた。そのため、FGM を受けていない女性は、性的に活発であると捉えられることが述べられていた。

The perception they have back home, if the girls are not circumcised, they will be very active

sexually, and they will lose their virginity (No. 6).

*Owing to this, they say that they practice
circumcision to calm her* (No. 4).

3) 男性の性行為の充足

結婚相手である男性の性的欲求を満たすために、女性はFGMを受けることが求められていることが記述されていた。

*It is the duty of this woman in this married life
... to not to put a barrier in terms of his sexual
advances, and fulfil his sexual desires* (No. 5).

4) 宗教上の必要性

下位カテゴリーは、「スンニ (Sunna) を推奨している」、「FGMは宗教上の義務である」に区分された。

(1) スンニ (Sunna) を推奨している

宗教や地域によって異なるが、宗教としてFGMのスンニ (Sunna) タイプを支持していると記述されていた。宗教としては主にイスラム教であった。

Religion approves of the Sunna type (No. 2).

*People say that the "Sunna" type is supported by
religion* (No. 4).

(2) FGMは宗教上の義務である

FGMは主にイスラム教において宗教的必要条件として認識されていると記述されていた。そのため、FGMを受けない女性は、イスラム教に反していると捉えられることが明らかとなった。

*In the Muslim religion, we believe that if we are
not circumcised, we feel that we are totally against
our religion* (No. 4).

5) 母親によるFGMの推進

下位カテゴリーは、「母親が父親の同意なしに受けさせる」、「母親が娘の同意なしに受けさせる」、「母親のFGMの支持」に区分された。

(1) 母親が父親の同意なしに受けさせる

エチオピアのソマリ地域において、父親が娘にFGMを受けさせたくない場合であっても、父親の同意を得ることなく、母親が娘にFGMを受けさせることが明らかとなった。

*I know some mothers encourage their daughters to
go to circumcisers without informing their fathers*
(No. 4).

(2) 母親が娘の同意なしに受けさせる

FGMは女性(娘)の同意を得ることなく、母親によって受けさせられていることが記述されていた。また、母親はFGMの決断を下す際に影響力を持ち、娘の意思に関係なくFGMを受けさせるため、男性の結婚相手はFGMを受けた女性となる可能性が高いと記されている。

Most of the girls didn't decide for Female Circumcision
(No. 3).

*I think it is difficult to marry only an uncircumcised
girl because circumcision is usually done without the
consent of the girl* (No. 4).

(3) 母親のFGMの支持

母親は、FGMを伝統・文化として捉え、継続を支持していることが記述されていた。そのため、FGMによる危険や問題があったとしてもFGMの施術を継続することが明らかとなった。

*It is the old belief or culture mothers uphold that
makes them perform FGM without considering the
danger and the problem it involves* (No. 4).

6) 地域社会の帰属の保障

下位カテゴリーは、「成熟した女性になるために必要」、「差別・追放を免れるために必要」、「社会・周囲からのプレッシャー」、「男性の社会的尊重・受容」、「富を得るために必要」に区分された。

(1) 成熟した女性になるために必要

FGM を受けることによって、成熟した女性や礼儀正しい女性として認められることが記述されていた。

In Somalia, however, circumcised girls are seen as polite and decent girls (No. 3).

It was the right time for me to join womanhood and for that I had to be circumcised (No. 7).

(2) 差別・追放を免れるために必要

FGM を受けなければ、地域社会の住民によって差別や追放などを受けるため、女性はFGMを受けていることが記述されていた。また、FGMを受けていない女性は、汚らわしいみだらなという意味の言葉や、陰核があるという意味の言葉を用いて、罵られるということが明らかとなった。

She will be called bad names and people will say she is with the baaro or she is buuryo qab (“She still has the clitoris”) (No. 2).

They remain the ones who discriminate and outcast those who didn’t undergo through this practice (No. 7).

(3) 社会・周囲からのプレッシャー

母親は、娘がFGMを受けていない場合は、地域社会や周囲の人々からのプレッシャーを受け、娘にFGMを受けさせることや割礼者がFGMを受けていない女性を施術場所に連れて行くことがあることが記述されていた。

If they realize that the child was not circumcised, they will come and take her to do it (No. 6).

At the beginning I was not willing to have my daughter circumcised, but later I couldn’t withstand the pressure from the elders (No. 7).

男性において、FGMが結婚の必要条件である地域では、女性がFGMを受けていない場合、男性の身内家族から女性にプレッシャーをかけることや、結婚が破談となることもある。

This act totally disappoints the family and results in a heavy depression on their (the family’s) side (No. 4).

(4) 男性の社会的尊重・受容

男性が成人へと移行し、社会的身分や地位を得るために、FGMを受けた女性と結婚することが必要であると記されていた。若い男性にとって、自分の住むコミュニティにおいてFGMを受けている女性との結婚こそが、社会的に信頼され、大人としての役割を得るために大切であると述べている。

It is important because when we marry you will be allowed to sit with your married colleagues, you discuss things about the community together, you sit together, you enjoy ceremonies together, you will have a preserved place to sit together. If you are not married you will not be respected (No. 5).

(5) 富を得るために必要

FGMを受けた女性と結婚することによって富を得ることができるという認識を持っていることが記述されていた。また、女性の家族の場合は、FGMを受けていない女性がいると家族の名誉に影響を与えるため、FGMを受けさせていることが明らかとなった。

If you ask each family independently, nobody agrees with the abandonment, because it affects the family's honor (No. 4).

For men, marriage to a woman with FGM was viewed as necessary to ensuring wealth accumulation, both in the everyday world and as part of being provided with "blessings" from ancestors (No. 5).

7) 健康被害の少ない FGM の実施

下位カテゴリーは、「スンニ (Sunna) の擁護」, 「FGM の安全な実施」に区分された。

(1) スンニ (Sunna) の擁護

女性・男性ともに、陰部封鎖 (Infibulation) など他の FGM タイプに比べて健康被害が少ないことから、スンニタイプの継続を望んでいることや好んでいることが記述されていた。

I plan to do a slight sunna, or I can even leave them [the daughters] as they are (No. 2).

The majority of the respondents confirmed that Sunna type is preferable than infibulation type of FGM (No. 4).

(2) FGM の安全な実施

割礼者による FGM の施術は時に失敗を招き、病院での手術が必要となるため、女性は、FGM を受ける際の健康への被害を最小限にするために、病院での FGM の実施を望んでいることが記述されていた。

*That they all get excised in hospital (No. 1).
Because they already make surgery on women who were excised badly. So to avoid all this, if they could do it there for girls too ... without the risk (No. 1).*

8) 耐えられない苦痛の体験

下位カテゴリーは、「施術直後の苦痛の記憶」, 「施術の継続的な消えない苦痛の記憶」に区分された。

(1) 施術直後の苦痛の記憶

FGM を受けた女性は、施術直後に感じた出血や痛みなどの苦痛について述べていた。

The first suffering started on the day of circumcision that resulted in excessive bleeding and severe pain (No. 4).

(2) 施術の継続的な消えない苦痛の記憶

FGM を受けた女性は日常的に FGM による痛みを感じ、忘れないように強いられていることが明らかとなった。また、FGM を受けた日のことを忘れることはできないと述べていた。

The pain I experienced always compels me not to forget that day (No. 7).

9) 法律・人権の侵害

下位カテゴリーは、「少女・女性の人権の侵害」, 「不法 (懲役や逮捕)」に区分された。

(1) 少女・女性の人権の侵害

FGM は少女・女性の同意なしに実施され、時には体を抑えられながら施術する場合があります、人権を侵害していると記述されている。

*Therefore, FC is violation of human rights (No. 3).
I couldn't move my body as I was tied and held to the ground by adults (No. 7).*

(2) 不法 (懲役や逮捕)

主に FGM を法律で禁止しているノルウェーでは、不法なものとして認識していることが記述さ

れていた。そのため、FGMを女性に施術した人は刑罰に問われることが述べられていた。

FC is unlawful in Norway and there is the likelihood of a penalty of 5 to 8 years for those who are found performing the practice (No. 3).

10) 宗教によって求められていない

FGMは宗教的に求められているものではないことが記述されていた。

I think the majority of the people are aware now that it is not religious (No. 2).

I believe female circumcision is not a religious requirement; it is just a common tradition (No. 4).

11) 健康への害

下位カテゴリーは、「FGMの施術による健康被害」、「死のリスク」、「月経痛・困難」、「不妊・分娩・出産の困難のリスク」に区分された。

(1) FGMの施術による健康被害

FGMを受けた女性は、同じナイフ使用による性感染症やFGMの切除部分の治癒遅れによる尿漏れ、FGMの施術者の過誤などの健康被害を生じることが記述されていた。

Since that time until marriage, I have suffered a lot during menstrual periods and during sexual intercourses that mostly resulted in severe pain and genital infections (No. 4).

The negative consequences were often attributed to malpractice on the part of traditional practitioners (No. 1).

(2) 死のリスク

FGMを受けた女性は、出血やその他の健康被害によって亡くなることがあると記述されていた。

The fourth was that the girls could "bleed to death" (No. 1).

(3) 月経痛・困難

FGMを受けた女性は、性器の切除後に縫合したことによって、月経痛や月経困難が生じていることが記述されていた。

I used to have very painful menses when I was a girl and before I got married I used to vomit (No. 2).

(4) 不妊・分娩・出産の困難のリスク

FGMを受けた女性は、不妊や分娩、出産の際には、困難が生じる可能性があるとして記述されていた。

Often when you get pregnant and give birth ... you will have problems during the delivery (No. 1).

She can be sterile (No. 1).

12) 親としてFGMの反対

下位カテゴリーは、「(女性)親としてFGMの反対」、「(男性)親としてFGMの反対」に区分された。

(1) (女性)親としてFGMの反対

FGMの継続を支持する女性がいる一方で、母親である女性は、FGMの廃絶を望んでいることが記述されていた。

As long as I'm alive, no one will touch my daughter (No. 6).

I strongly support the discontinuation of FGM from our region (No. 4).

(2) (男性) 親として FGM の反対

女性同様、男性の親の中にも FGM の廃絶を望んでいることが記述されていた。また、FGM 廃絶の鍵を握るのは女性であることが明らかとなった。

I agree on the discontinuation of FGM, but first, it is women who hold the key to ending the practice (No. 4).

13) FGM と結婚生活との関連の否定

下位カテゴリーは、「FGM の結婚への影響の否定」、「FGM を受けていない女性の方が性的欲求を満たせる」、「FGM が性活動を抑えることは正しくない」に区分された。

(1) FGM の結婚への影響の否定

男性は、FGM をしていない女性との結婚を望んでいることが記述されていた。その理由として、分娩の際に問題が生じないことがあげられていた。

Since I am the member of the youth association of Harari region, what I hear and know is that young people don't focus on circumcision for marriage (No. 4).

But here some men take it positively to marry uncircumcised woman because she doesn't have complications during birth (No. 5).

(2) FGM を受けていない女性の方が性的欲求を満たせる

男性は、FGM を受けていない女性との結婚の方が、FGM を受けている女性に比べ、性的欲求が満たされることが記述されていた。また、男性は、夫の性的欲求を満たすことが女性の結婚人生の義務であると捉えていることが明らかとなった。

It is the duty of this woman in this married life

... to not to put a barrier in terms of his sexual advances, and fulfil his sexual desires ... my friend said that marrying an uncut woman is better because even right now (No. 5).

(3) FGM が性活動を抑えることは正しくない

FGM を受けることによって性的関心や欲求が抑えられるという効果はないということが記述されていた。

Even if one does excise women — they are unfaithful anyway (No. 1).

I think what is said about the effect of circumcision on a girl (that it makes her calm and sexually inactive) is false (No. 4).

IV. 考察

アフリカを母国とする男女の FGM に対する認識・態度と文化的背景による影響を明らかにし、コミュニティにおける FGM 廃絶に向けた効果的な介入について考察することを目的とした今回の研究結果から、FGM を実施している地域社会の人々の FGM に対する認識・態度の特徴が明らかとなった。その特徴について以下に考察していく。

1) 女性としてのアイデンティティにみる FGM

女性にとって FGM は、地域社会の中で生きていくためのジェンダーアイデンティティとして確立されたものである。下位カテゴリーより、FGM のジェンダーアイデンティティの構成要素として、「結婚をするための義務」、「処女性の確立」、そして「母親が娘に（父親と娘の同意なしに）FGM を受けさせる」という母親としての役割が考えられる。FGM を受けることにより、「成熟した女

性になるために必要」な状態であることが認められ、結婚の前提となっている処女性が保証される。さらに母親として、娘を育てあげるための責務として世代を超えてFGMを継承している。宮脇(2009)は、エチオピアでは現地の女性がジェンダーアイデンティティとしてFGMの継承を支持していると述べており、FGMに対する女性の認識そのものが、FGMが継承している要因の一つとなっていると考えられる。

2) 家父長制社会におけるFGM

FGMはアフリカの地域社会に根付いた家父長制社会において、社会慣習として必要なものとなっていることが明らかとなった。FGMを支持する根拠の基盤となっているのは、男性の女性に対する認識であった。それは【男性への忠実性の保証】、結婚前の「積極的な性活動の否定」、そして結婚後の生活維持における【男性の性行為の充足】のためと考えられる。FGMを行っていることで女性は「男性(夫)への純潔性を証明」することができ、結婚前に性活動をしていないことを示せる。また、FGMを行った女性は【男性の性行為の充足】をさせることができると認識されており、結婚生活を維持していくための条件ともなっていた。Berg and Denison(2013)は、男性にとって、FGMは性的関心の満足を高めると述べている。FGMは男性が持つ女性のあるべき姿を満ち、保証するものとして認識されており、家父長制社会の「伝統・文化」から影響を受けていると推察される。

3) 男性の社会的受容のためのFGM

男性のFGMに関する認識として、地域社会の中で1人の男性として認められるために女性のFGMを必要としていることも示された。男性は、

FGMを受けた女性と結婚することが、成人した「男性の社会的尊重・受容」、「富を得るために必要」であると認識していることが明らかになった。男性が地域社会の中での身分・地位を築くためには、FGMを受けた女性との結婚が必要な条件であった。Johansen(2007)は、男性にとってFGMの表面的中心役割は性的関心の欲求より男性自身の道徳や威厳の維持にあると述べている。男性は、自身の社会的尊重・受容を保持するためにFGMを受けた女性との結婚を望んでいると考えられる。

4) 女性によるFGMの継承

一方、女性はFGMによる【耐えられない苦痛の体験】や【健康への害】を受けながらも、世代を超えてFGMを継承していることが示された。FGMを受けた女性は長期にわたる健康被害を受けており、それは「施術の継続的な消えない苦痛の記憶」、「不妊・分娩・出産の困難のリスク」として述べられた。FGMの程度によっては、出血多量となる場合があり、命の危険にさらされる可能性がある。女性にとってFGMを受けた日の記憶は消えることのないものであり、施術による様々な苦痛は鮮明に記憶されている。しかしながら、FGMによる健康被害や苦痛よりも、女性として社会で生きていくために女性自らが継承の役割を果たしている。

5) FGM廃絶のための取り組み

FGMに対する認識・態度は、地域社会の伝統・文化に深く根付いたものである。これらの認識・態度が影響し合い、FGM廃絶に向けた取り組みを阻害する要因となっている。WHO(1999)は、FGMは、文化的に深く根付いた信念によって行われており、FGMに対する認識・態度を変

容することは容易ではないと述べている。また、FGMは、人口集団間の普及率や支持している程度や傾向は異なっていることも指摘されている (UNICEF, 2013)。そのため、FGMを終わらせるための介入は、地域的、民族的、社会経済的要因を反映させ、地域社会の主導によりなされることが求められる (WHO, 2008)。

6) 今後の課題

今後の課題として、今回の文献検討の対象文献数が7件と少ないことから、アフリカ全体を指して男女のFGMに対する認識・態度とすることには限界がある。アフリカの国々の女性の多くがFGMを受けていることが明らかになっている一方、FGMを不法とし廃絶の動きも活発に進められており、地域に拠って実施率の偏りも見られることから、対象文献数を増やし、国・地域の実施率も踏まえ検討することが求められる。

V. 結論

FGMに関する認識は、FGMの維持を促す認識・態度とFGMに対する否定的な認識・態度に分類され、13のカテゴリーに区分された。これらのカテゴリーにみられる認識・態度の特徴は、女性としてのジェンダーアイデンティティの確立、地域社会の伝統や文化に根付いた家父長制社会、宗教によるFGM継続についての多様な思考、そして健康被害を受けながらも女性がFGMを継続している要因が示された。その特徴を踏まえた上で、その地域の社会文化的特徴を考慮に入れたFGM廃絶に向けた介入方法の重要性が示唆された。

利益相反の有無の開示

本研究に利益相反はございません。

付記

本研究は、創価大学看護学部卒業研究に加筆修正したものです。

引用文献

- Abathun, D. A., Sundby, J., & Gele, A. A. (2016). Attitude toward female genital mutilation among Somali and Harari people, Eastern Ethiopia. *International Journal of Women's Health*, 8, pp.557-569.
- Adinew, Y. M., & Mekete, B. T. (2017). I knew how it feels but couldn't save my daughter; testimony of an Ethiopian mother on female genital mutilation/cutting. *Reproductive Health*, 14(1), pp.1-5.
- Berg, R. C., & Denison, E. (2012). Effectiveness of Interventions Designed to Prevent Female Genital Mutilation/Cutting: A Systematic Review. *Study in Family Planning*, 43(2), pp.135-146.
- Berg, R. C., & Denison, E. (2013). A tradition in transition: Factors perpetuating and hindering the continuance of female genital mutilation/cutting (FGM/C) Summarized in a systematic review. *Health Care for Women International*, 34(10), pp.837-859.
- Brown, E., Mwangi-Powell, F., Jerotich, M., & May, V. L. (2016). Female genital mutilation in Kenya: are young men allies in social change programmes? *Reproductive Health Matters*, 24(47), pp.118-125.
- Fried, S., Warsame, A. M., Berggren, V., Isman, E., & Johansson, A. (2013). Outpatients' perspectives on problems and needs related to female genital mutilation/cutting: a qualitative study from Somaliland. *Hindawi Publishing Corporation, Obstetrics and Gynecology International*, 2013, pp.1-11.
- Gele, A. A., Sagbakken, M., & Kumar, B. (2015). Is female circumcision evolving or dissolving in Norway? A qualitative study on attitudes toward the practice among young Somalis in the Oslo area. *International Journal of Women's Health*, 7, pp.933-943.
- Jirovsky, E. (2010). Views of women and men in Bobo-Dioulasso, Burkina Faso, on three forms of female genital modification. *Reproductive Health Matters*, 18(35), pp.84-93.
- Johansen, R. E. B. (2007). Experiencing sex in exile: Can genitals change their gender? — On conceptions and experiences related to female genital cutting among Somalis in Norway.

- Johansen, R. E. B., Ziyada, M. M., Shell-Duncan, B., Kaplan, M. A., & Leye, E. (2018). Health sector involvement in the management of female genital mutilation/cutting in 30 countries. *BMC Health Services Research*, 18.
- Koukoui, S., Hassan, G., & Guzder, J. (2017). The mothering experience of women with FGM/C raising 'uncut' daughters, in Ivory Coast and in Canada. *Reproductive Health*, 14(1), pp.1-11.
- 宮脇幸生 (2009). エチオピアにおける FC/FGM (女性性器切除) とジェンダーをめぐる諸問題. 2007年度第2回コロキウム, *女性学研究*, 16, pp.107-135.
- Muteshi, J., & Sass, J. (2005). Female Genital Mutilation in Africa: An Analysis of Current Abandonment Approaches. Nairobi: PATH; 2005 pp.1-76. https://www.path.org/publications/files/CP_fgm_combnd_rpt.pdf
- Reisel, D., & Creighton, M. S. (2014). Long term health consequences of Female Genital Mutilation (FGM). *Maturitas*, 80(1), pp.48-51.
- UNFPA, UNHCR, UNICEF, UNIFEM, WHO, FIGO, ICN, et al. (2010). Global strategy to stop health-care providers from performing female genital mutilation. pp.1-18.
- UNICEF. (2013). Female Genital Mutilation/Cutting: A statistical overview and exploration of the dynamics of change. 11月2日, 2018年. https://www.unicef.or.jp/library/pres_bn2013/pdf/FGCM_Lo_res.pdf
- UNICEF. (2016). Female Genital Mutilation/Cutting: A Global Concern. 4月28日, 2018年. https://www.unicef.org/media/files/FGMC_2016_brochure_final_UNICEF_SPREAD.pdf
- World Health Organization (WHO). (1999). Female Genital Mutilation. Programmes to Date: What works and what doesn't. 11月3日, 2018年. <http://apps.who.int/iris/handle/10665/65857>
- World Health Organization (WHO). (2008). Eliminating female genital mutilation: An interagency statement. 11月2日, 2018年. <https://www.who.int/reproductivehealth/publications/fgm/9789241596442/en/>
- World Health Organization (WHO). (2018). Female genital mutilation. 4月28日, 2018年. <http://www.who.int/en/news-room/fact-sheets/detail/female-genital-mutilation>